

第2次

「まめな川西 いつわの里」づくりビジョン

ダイジェスト版



• エピソード・
興味のある話
• 五つの町の
五つの輪、和

• まめな人が
まめで暮らす
• 豆をつくる



川西自治連合会

平成28(2016)年4月

川西地区の状況

1) 位置と地勢

川西地区は、中国地方内陸部、三次市中心部から本地区中心部まで約 15 kmの南部に位置し、旧双三郡川西村域の三若町、海渡町、石原町、上田町及び有原町の5つの町で構成された川西小学校区を区域とする地区です。

面積は約 4 2. 5 平方キロメートル、東西長 9. 6 3 k m、南北長 1 0. 0 3 k mで、本地区中心部の標高は約 2 1 0メートル、美波羅川に沿って北方に一端を開く盆地部と、旧三次市の最高峰岡田山（標高 638.8m）山地部からなる典型的な中山間農村地帯で、国道 375 号が南北に縦断し、これに主要地方道三次・庄原線が北東に、主要地方道三次・大和線が南東に本地区内で結節しています。

本地区の主要公的施設は、川西保育所、川西小学校、川西コミュニティセンター、川西診療所、川西郵便局及び三次警察署川西駐在所でそのすべてが三若町にあります。

2) 人口・世帯数の状況

- ・川西地区の人口は、平成 28 年 1 月 1 日現在 1,130 人です。このうち高齢者（65 歳以上）は 539 人で、高齢化率では 47.7% となっており、三次市の 33. 9% を大きく上回り、2 人に 1 人が高齢者に近づいています。
- ・世帯数は 475 世帯あり、地区人口を世帯数で割った 1 世帯当たりの人員は 2.4 人となっています。
- ・10 年前と比べ、人口では約 200 人減少し、平成 18 年の 83% となる一方で、高齢者も 27 人減少し、人口減少と高齢化の進行が同時に生じている地区となっています。
- ・世帯数は、10 年前と同じであることから、世帯の少人数化が進み、高齢者夫婦世帯や、高齢者単身世帯の増加も危惧されます。

テーマ

実り豊かな田園が広がり

健康でよく(まめに)動く

ふるさと川西

5町からなり

蛙の河鹿鳴く

豊かな自然の里です

そこで

川西の里の冠(キャッチコピー)を

まめな川西 いつわの里

とし 川西のマスコットを

河^かじか^が鹿^ガエ^{エル}

としました

河鹿蛙の「かえる」は

「ふるさとに帰る」「住みよ

い川西に変える」の意味も

あります

したがって本まちづくりビ

ジョンのタイトルは

「まめな川西 いつわの里づくりビジョン」

とします

川西⇒昔、美波羅川を西川と言い、明治期に流域小村が合併し西川村ができ、後に川西村となり現地区名となった。

里づくりの基本目標

いつわ(五輪・和)で創る 田舎暮らしが楽しい里

「いつわ」……5つの輪(町・和)
逸話(エピソード・興味のある話)

私たちが暮らす 「まめな川西いつわの里」は、川西地区を構成する5つの町を基礎単位として、古くから町内会活動が活発に展開されてきました。今後もこの歴史と作風を活用し、それぞれの個性を生かしながら、連帯の輪(和)により創造していく必要があります。

また、川西最大の資源は、その田舎性にあります。田舎暮らしそのものがステータスとなり、住民一人ひとりが美しく豊かで文化的な生活環境のもと、安全・安心に快適に楽しく、存在感を持って暮らせることが求められます。

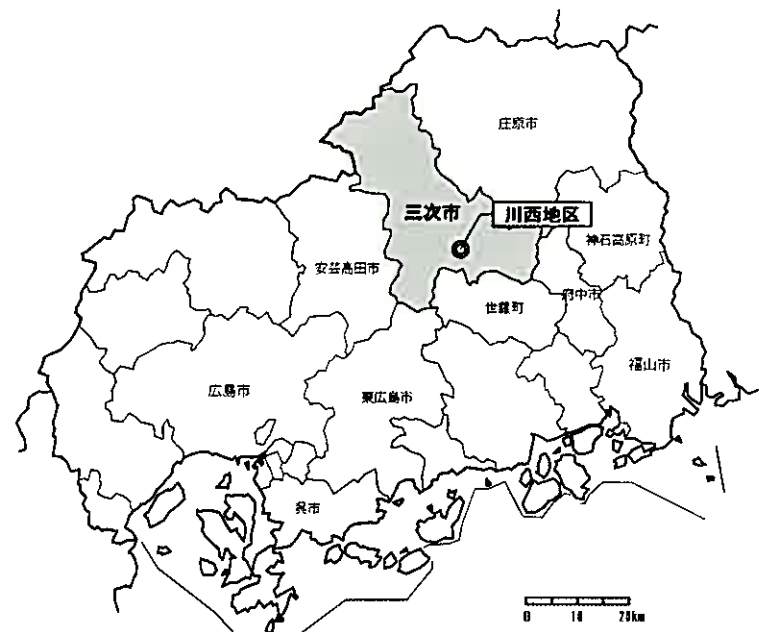
そのためのエピソード・興味のある話と夢が求められます。このことから、里づくりの基本目標として「いつわで創る田舎暮らしが楽しい里」をめざします。



里づくり活動の基本姿勢

ふるさとほりおこしまの「宝」を「掘起資磨」しよう

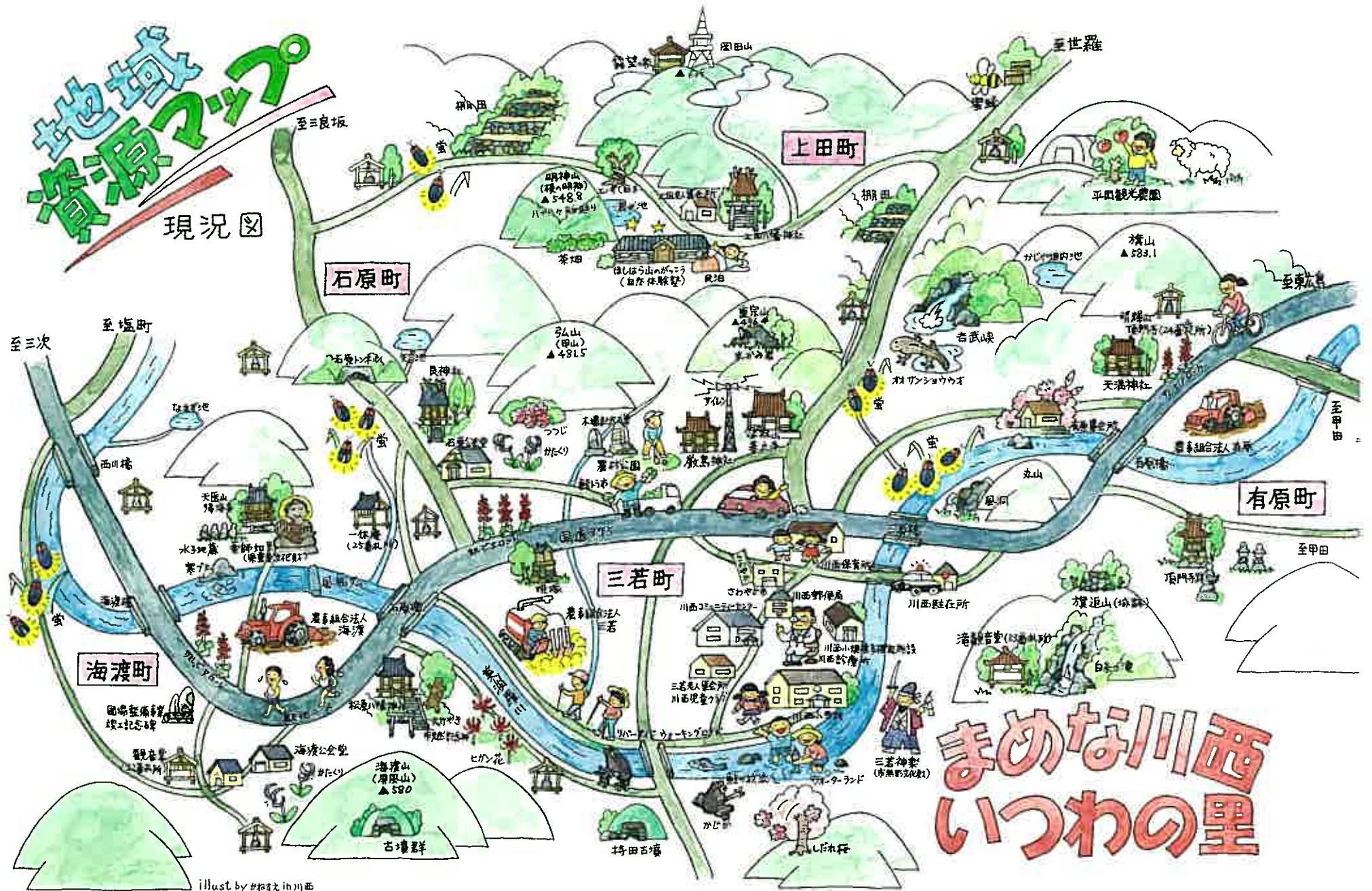
- 宝…… ①ふるさとに結びつくあらゆる人々、②豊かな自然、③他でもない川西という場所、④先輩の築いた歴史、⑤育まれた生活と文化
- 掘る…… 文字通り見つけ出すことです
- 起こす… 創造する、新たに作り出すことです
- 資する… 役立たせる、資源・資本・お金にすることです
- 磨く…… 光り輝かせる、付加価値をつけることです



地域資源マップ

現況図

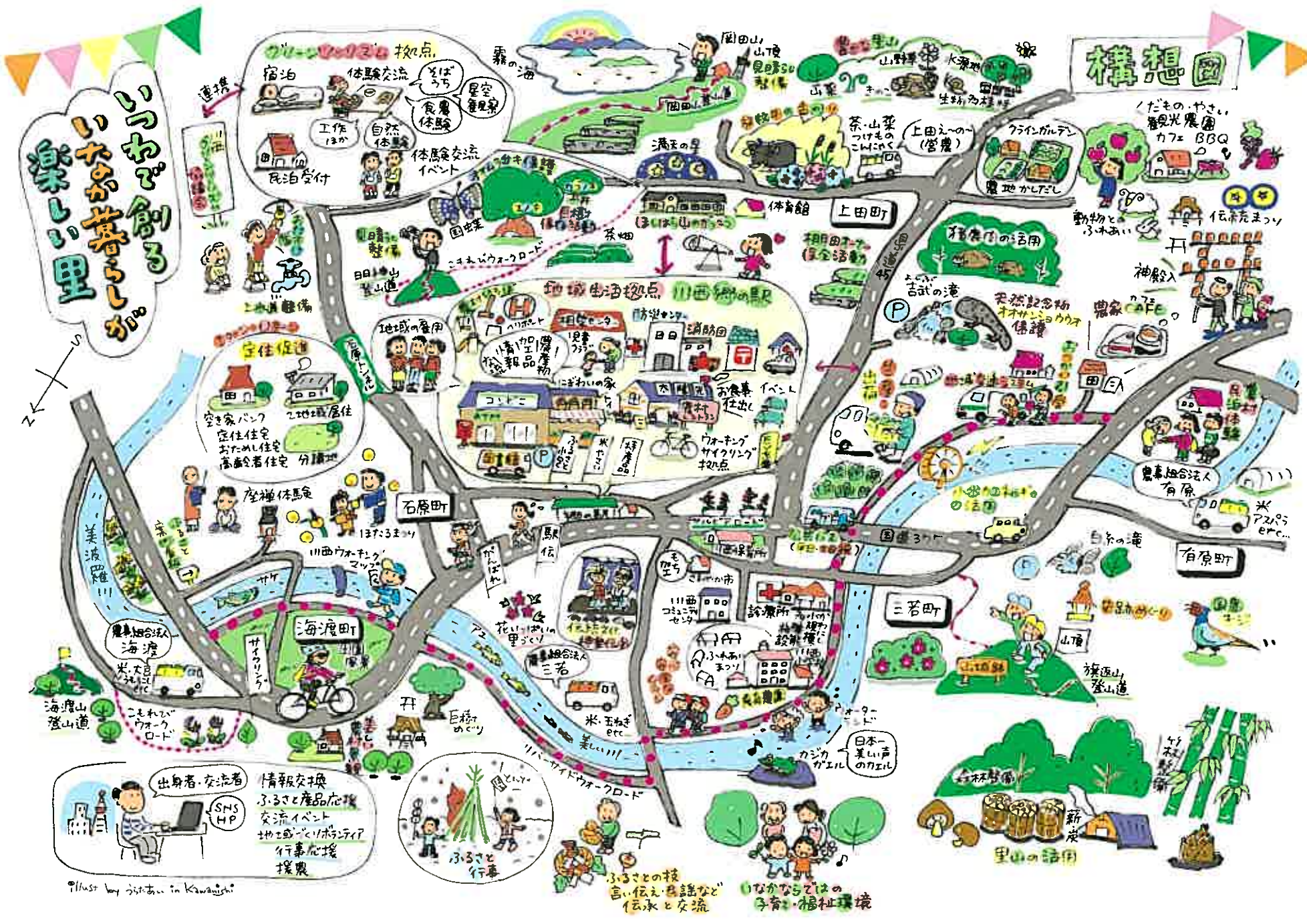
川西あるものがし



まめな川西 いつわの里

illustr by 相模川川西

構想図



楽しい里
いなか暮らし
の創造

出身者・交流者
情報交換
ふるさと産品販売
交流イベント
地域づくりボランティア
行事応援
援農

ふるさと
行事

ふるさと
の枝
言い伝え・民謡など
伝承と交流

いなか暮らし
の
子育て福祉環境

Illustration by Jishin in Kawasumi

「まめな川西 いつわの里」づくりの将来像

まめな川西ベースプラン(5つのわ)

いつわ(五輪・和)で創る田舎暮らしが楽しい里

笑顔が輝く
田舎暮らし癒しの里

〈福祉・保健〉

- ^{あいあい}相愛で築く福祉の里づくりの推進 (相愛のネットワークづくり)
- ^{あいあい}寿命と健康寿命の一致をめざす健康の里づくり (まめなネットワークづくり)

水緑が輝く
田舎暮らし堪能の里

〈自然環境・安全防犯〉

- ◎ふるさとの自然の良さを守り育て、快適な暮らしを堪能できる里づくり

技が輝く
田舎暮らし創造の里

〈生涯学習・文化・教育〉

- 子どもがふるさとの誇りを持てる教育環境のある里づくり
- 学びあいと創りあいで生きがい、やりがい、暮らしがいのある里づくり
- 人と人がつながり、誇りの持てる里づくり

家並みが輝く
田舎暮らし安心の里

〈集落環境〉

- ◎田舎暮らしがステータスとなる生活の利便性、快適性、安全性を高める里づくり

実りが輝く
田舎暮らし豊穡の里

〈地域振興・活性化〉

- さまざまな人々の定住につながる魅力ある稼ぎの場づくり
- ふるさとの資源を活用した都市との交流の場づくり

○ベースプランと重点プラン

○アクションプラン

○何を、誰が、いつまで、どのようにするか具体的な行動計画実践事業シート

ふるさと・自然体験
企画・受け入れ・運営

クラフト
木工・手仕事

ウォーキング

星空観察

匡田山 山頂より
霧の海と日の出

企画展

サイクリング

そば打ち

自然体験馬舎

夏休み
ふるさとキャンプ

観察会

座禅体験

環境教育
野外活動
食農体験
修学旅行

団体受け入れ

ふるさと交流センター

ふるさと応援団

川西が
第2のふるさと

ボランティヤ

ふるさと
宅配便

週末田舎暮らし

援農
グループ

ふるさと
会員

相愛センター

川西グリーンツーリズム拠点

都市農村
交流センター
ほしはら山のガウラウ

川西
グリーンツーリズム
拠点

地域生活拠点 375 泊

川西郷の駅

- 農産物直売所
- 特産品販売・開発
- 農村カフェ
- カントリーウォーキング
サイクリングセンター
- 地域防災センター
- 農村コンビニ (ATM)
- 相愛センター

いなかがらし
情報収集・発信

- ふるさとの暮らし開きと記録
- ふるさとの技の伝承
- これからのいなかぐらしの
研究・提案 など

ふるさと
交流センター

連携

農村民泊の受付

ふるさとふところイベント
情報発信・企画

神楽 とんど
季節のまつり
伝統行事

交流者の受け入れ

- 農村での過ごし方
ご案内・提案
- 援農・相田オナーなど
応援団休けい・宿泊
- ご利用者の受け入れ

個人 (ファミリー) 団体

ふるさと案内人
自然・田舎体験インストラクター
養成・活躍の場

ふるさと案内人
認定証
〇〇名

川西グリーンツーリズム夢マップ 2006

一部修正・付加あり 2016

重点施策 地域生活拠点「川西郷の駅」

○基本コンセプト

川西ならではの
合わせわざで出来る
郷の駅
(イメージ図)

農村まるごとミュージアム
「いっわの里広場」構想



合わせわざの達人

川西郷の駅づくり推進委員会

イラスト: KANESUE

地域生活拠点「川西郷の駅」

重点施策 地域生活拠点「川西郷の駅」

○基本方針

1. 安心して暮らし続けられる生活の拠点とする

- 「食料品・日用品販売所」「役所機能（証書発行等）」「ATM」「医療・保健・福祉施設」「防災センター」「見守りシステム」等の生活サービスを設立した施設とする。

2. 田舎暮らしが楽しい郷づくり

- 「地域サポートセンター」による商品配達や集荷、送迎サービス、「町民の寄り合い場所」の設置により、住んで楽しい郷づくりを目指す。

3. 全町民が係わり運営する組織とする

- 運営は町民主体とし、主旨に賛同する関係者と共同した法人組織として、自主的に運営する。
- 経営に長けた人材を登用し、地域の人材を生かし、住民による住民のための運営を行う。

4. 地域文化の薫りのする施設とし、地球環境に配慮した循環型地域づくりを目指す

- 地産地消を基調とし、森林資源・畜産資源、生活廃棄物等の有効利用を促す。

5. 地域資源を有効に活用して、住民所得が増加する仕組みをつくる

- 農地の有効活用・周年供給できる商品開発、川西ならではの特産品づくりによって農家の所得増加を目指す。

6. 住民の愛着の持てる場所にする

- 田舎の色と風景（視覚）、匂い（嗅覚）、味わい（味覚）、音（聴覚）、雰囲気（感覚）を大切にした施設と運営で住民が親近感、愛着を持てる場所にする。

7. 情報受発信機能を充実して、地域の魅力を発信すると共に、地域内の諸施設と連携し、より魅力的な地域に発展させる

- 町内外の縁を増やし、相互にとってメリットのある関係を深め、広域な関係を深めていく。

重点施策 地域生活拠点「川西郷の駅」

○整備イメージ



※ 整備イメージは、計画段階のもので

第2次「まめな川西いつわの里づくりビジョン」策定にあたって

1) ビジョンを取り巻く経過

川西地区人口は、1955(昭和30)年をピークに現在約1/3にまで減少、高齢化率も40%超の過疎地となり、市役所出張所、農協支所、各種商店、ガソリンスタンドなど、地域の暮らしや産業を支え、拠点を形成し基礎的定住機能を担う主要施設が次々と消えていった。

こうした状況を受け、川西自治連合会では、2006(平成18)年3月に「まめな川西いつわの里づくりビジョン」を策定し、都市農村交流拠点と地域生活拠点づくりを地域力向上の2大プロジェクトとして、両者連携しての地域づくりを掲げた。

都市農村交流拠点は、2008(平成20)年、農林水産省の農山漁村地域力発掘支援モデル事業計画を策定、農家民宿・民泊の育成、ふるさとふところイベント、民話絵本や地域紹介本の作成など、グリーンツーリズム事業の展開と共に旧上田小学校校舎を整備、運営のためのNPO法人設立の支援を行い、実現を見た。

地域生活拠点づくりは、2009(平成21)年、生活・交流・生業・防災復興の複合施設「農村まるごとミュージアム『いつわの里広場』」構想を掲げ、地域住民自身で運営する地域密着型の新たな機能と形態を持った地域拠点(通称「郷の駅」)づくりを提唱、2010(平成22)年には、機運醸成の一環として計画地で軽トラ朝市を始め、2011(平成23)年、「川西地区拠点(郷の駅)整備検討資料」を作成、基本的方向を明らかにした。2013(平成25)年、国土交通省の「集落地域における『小さな拠点』づくりモニター調査」地域に選定され、全住民アンケートや集落懇談会を開催し意識の醸成に努め、同年11月24日、地域内世帯の85%に上る出資の地域マネジメント会社「株川西郷の駅」を設立、三次市の支援のもと、郷の駅の具体的な土地利用計画図や施設計画のランドデザイン及びプレゼン資料を作成、2015(平成27)年、三次市にて計画地の買収、敷地造成工事が着手され、「川西郷の駅」が具現化した。

その他、地域経営を経済活動により実践的にできるよう、町単位では農事組合法人(山間地上田町はNPO法人)を、地区全体は「株川西郷の駅」

づくりを行い、市内でも例を見ない体制となった。

また、「川西自主防災会」による防災活動を進めており、将来的には、郷の駅を地域の防災・復興拠点として機能整備を目指すこととしている。

さらに、小規模多機能施設と診療所の一体化運営と整備、上水道の整備、リバーサイドウォークロードの整備、旗返城址等の整備による安心、快適な地域形成や、元気ハツラツ教室、いきいきサロン、高齢者男性料理教室、老人世帯懇談会や訪問、敬老会などの福祉活動、青色回転灯パトロールなど子どもの見守り活動が行われ、各種趣味講座やシルバー学級、講演会などの生涯学習や、地域づくりに関連するワークショップなど地元学の展開が図られている。

2) 第2次ビジョン策定の基本方向

第1次「まめな川西いつわの里づくりビジョン」に掲げる地域づくりの基本目標「いつわ(五輪・和)で創る田舎暮らしが楽しい里」と、「まめな川西いつわの里」づくりの将来像及び基本施策の5項目を基本的に継続した。

加えて、近年の、全住民を対象とした「川西里づくりビジョンアンケート」、「郷の駅建設に向けてのアンケート」や「郷の駅作りに関する調査」、地域内すべての空き家現況把握調査、災害避難時要支援者調査、地区内人的・自然・歴史調査、独居・老人世帯調査、都市と農村交流アンケート、農産物生産に関するアンケート等の地域実態調査、各種委員会や地域懇談会の内容を踏まえ、その後の地域を取り巻く状況変化を取り入れて更新を図った。

3) 第2次ビジョン策定作業

策定作業は、川西自治連合会事業及び農林水産省農村集落活性化支援事業により取り組み、地域総合ビジョン部分を「まめな川西いつわの里づくり委員会」が担当し、重点施策「川西郷の駅」を拠点とした郷づくりビジョン部分を農村集落活性化支援事業実施組織の「川西地区郷づくり協議会(株式会社川西郷の駅、川西自治連合会、三次市で構成)」の「全体構想の策定部会」が担当した。

住民の生の声

〈アンケートより〉

温もり

寄り添いいたわり合って生きよう
物、金じゃなく、心の豊かさが大事
自然を友とし、親しもう。これが人間生活の
原風景だ。子や孫に残そう。
伝えよう。故里のぬくもりを！



暮らし

川西に土地を買って
家を建てても住みたくなるような
町づくりをしてほしいです。そのために
最低限、地元にととおりのお店が
あってほしい。風邪薬やノート一冊買う
ために市街地まで行くのは
効率が悪い。

人づくりこそ川西の生きる道
名門校へエリートへの道ではない
その道の達人こそ必要。医師、大工、左官
理容師、シェフ等々人が盗むことが出来
ない専門職を地区を拳げ目指しては
どうか。川西には、その道の人材がいる
ことが川西発展の力になるだろう



人

夢



話をしたり、コーヒーを
飲んだり気軽に集まれる
場所が川西地区にはない。そういう
場所が1~2カ所あれば、みんなが
気楽な気持ちで話しているうちに
色々な考えも出てくるようになり
発展につながるのでは。



第2次 まめな川西 いつわの里 づくりビジョン

発行-川西自治連合会
〒728-0621三次市三若町2651-1
編集-まめな川西いつわの里づくり委員会

